

★ ★ ★ ★ ★ アメリカ切手展 ★ ★ ★ ★ ★

america'25

American Philatelic Exhibition



アメリカ切手展2025

america'25

2025. 5.10 (土) - 11 (日)

ADMISSION 入場無料
※観覧料・郵税は別途

【時間】10(土)10:30-17:00 11(日)10:30-16:00
【会場】切手の博物館3階スペース1・2 [主催] 公益財団法人
日本郵趣協会 アメリカ郵趣研究会 [後援] アメリカ大使館

展示作品解説 【日時】10日(土) 14:00~20分程度
【テーマ】「プロミネント・アメリカン・シリーズ、
アメリカーナリシリーズ」

2025年5月10日(土)~5月11日(日)

於：「切手の博物館」(東京・目白)

主催：公益財団法人日本郵趣協会アメリカ郵趣研究会

(The U. S. Study Group, JPS)

後援：アメリカ大使館

◎ ご挨拶

私たちアメリカ郵趣研究会は、毎年アメリカ合衆国の独立記念日前後にアメリカ切手展を開催しておりましたが、酷暑を避けるため今年から開催時期を変更しました。今年も日本郵趣協会をはじめ、多くの方々のご協力により開催できることとなり、大変うれしく思っております。また、後援いただいているアメリカ大使館にも心から感謝申し上げます。

今年の展示は、周年記念の企画展示として、①プロミネント・アメリカン・シリーズ発行 60 周年、②アメリカーナ・シリーズ発行 50 周年、③太平洋航空路線開設 90 周年を取り上げました。また、アメリカ切手の全体像を見ていただけるように、1847 年に発行された最初の切手から、21 世紀の切手に至るまで、普通切手の年代順の展示、さらに展示室壁面を使って会員による 1 フレーム作品の展示も行っております。

気に入った切手や興味を持たれた作品などがありましたら、簡単な説明をさせていただきますので、会場におります研究会会員にお気軽にお声がけ下さい。また、写真も自由に撮っていただいて結構です。

どうか、ごゆっくりご鑑賞ください。

◎ 第 2～5 フレーム プロミネント・アメリカン・シリーズ 伊藤淳



このシリーズは、同じ切手でも発光 (Tagged) と不発光 (Untagged) があり、カタログでも区別されていますが、不発光の局型プリキャンセルの切手は近年入手が難しくなっています。左のブロックのような耳紙に印刷された標語も切手によっては製造数が少ないものもあります。使用例も含めて、このシリーズ

の面白さを感じていただければと思います。

◎ 第 6～7 フレーム アメリカーナ・シリーズ 小林伸佳



アメリカーナ・シリーズの時代は、印刷局に新型の印刷機が次々と導入され、さまざまな印刷機が使われました。アメリカ切手の目打は長い間単線目打でしたが、左の写真のように切手の 4 隅の目打穴が合致する全型目打機も次第に導入されていきます。しかし、新型機の不調で旧来の機械を使って臨時に対応することもあり、収集家から見ると興味深いバラエティーが出現したりもします。そうした製造面から見たこのシリーズを 2 フレームにまとめました。

◎ 第8フレーム 日本にやって来た



Prominent Americans Issue 太田隆啓

今年 2025 年は、普通切手プロミネント・アメリカンズが発行されて、60 年です。

このシリーズには、25 人の著名なアメリカ人が登場しています。

この中から日本に届いた郵便物を 1 フレームにまとめて紹介しました。

◎ 第9フレーム 日本に届いたアメリカーナ 太田隆啓

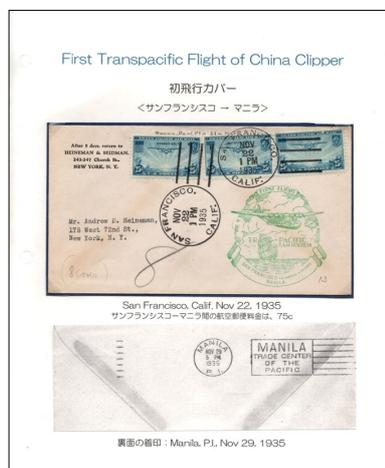


今年 2025 年は、普通切手アメリカーナ・シリーズが発行されて 50 年目です。

このシリーズは、25 額面の図案の切手があり、同じ図案のコイル切手や切手帳を加えると 34 種になります。

これらの切手を貼って日本に届いた郵便物に注目し、各額面のいろいろな使用例を 16 リーフにまとめました。

◎ 第10フレーム 太平洋横断 航空路 開設 90 年 太田隆啓



90年前の1935年、パンアメリカン航空により、サンフランシスコからフィリピンのマニラまでの太平洋横断定期航空路が開設されました。

使用機は、特注のマーチンM-130型4発飛行艇で、パンナム航空では、チャイナ・クリッパーと呼ばれました。

初飛行に合わせ、チャイナ・クリッパーを描いた記念切手が発行されました。

◎ 第 11～13 フレーム 19 世紀の普通切手

姉川義治



一昨年、「郵趣」において1年間、「サラリーマン収集家によるコレクションづくり奮闘記」を連載させていただきました。1847年の1番切手が発行される前の「局長臨時切手」から1869年シリーズまでの切手をいかにして、普通のサラリーマンがコレクションを作ってきたのかという観点で書かせていただきました。ともすると敷居の高いと思われる分野ですが、私の作品も毎年改良を加え、少しずつですが成長しています。19世紀のアメリカ普通切手の魅力を感じていただければと思います。

◎ 第 14 フレーム 1894 年シリーズから 1908 年シリーズ

戸上拓也



それまで切手の印刷を受注してきた民間の印刷会社から原版等が印刷局に引き渡され、1894年7月から切手の製造は全面的に印刷局で行われるよ

うになり、旧図案の上部左右に三角形の模様を加えた1894年シリーズが発行されました。1902年シリーズでは米国史上の有功者が、1908年シリーズではワシントンとフランクリンが、意匠として採用されています。1908年シリーズは、印刷方式、用紙（すかし）および目打の変化により、カタログのメインナンバーが220種以上とバラエティーに富むシリーズになっています。

◎ 第 15 フレーム 1922 年シリーズ

奥山昭彦



1922年シリーズは、それまでの1908年シリーズがワシントンとフランクリンの肖像だけで構成されていたのに対して、16人の肖像、アメリカの風景やアメリカを代表する建造物など、変化に富んだデザインで、とても人気のあるシリーズです。今回の展示は、各切手のデザインをひとつお見せいただくことに主眼を置いて構成しました

◎ 第 16 フレーム 大統領シリーズ

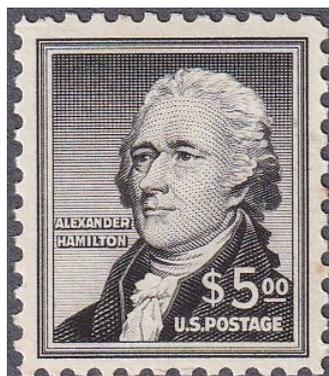
小林伸佳



1938年に発行された大統領シリーズは、切手収集家でもあった当時のF・D・ルーズベルト大統領の発案でデザインコンペを行って図案が決まった切手です。発行時に故人となっていた29人の大統領の肖像を、その就任順に割り振っており、しかも1セントから22セントまでは額面の数字が就任順と一致しています。技術的には当時の最先端技術である光電管を使った目打の自動制御システムの試行や、凹版平面印刷機を使った乾式印刷なども行われました。

◎ 第 17 フレーム リバティー・シリーズ

小林伸佳



1954年から発行された普通切手シリーズは、国内封書基本料金の3セントと、外国書状基本料金の8セントの図案に自由の女神を採用したことから、リバティー・シリーズと呼ばれています。それまでの大統領シリーズが画一的な肖像の横顔だったのに対して、このシリーズでは様々な角度で人物の表情をしっかりとらえており、魅力的な切手となっています。技術的には、凹版輪転印刷機の新型機を導入して、湿式印刷から乾式印刷への移行という技術革新が行われました。

◎ 第 18～19 フレーム 1980年以降の普通切手

小林伸佳



1975年発行のアメリカーナ・シリーズまでの普通切手は、シート切手・切手帳・コイル切手のすべてが同じシリーズとして統一されていました。ところが、1980年以降の普通切手は、シート切手はグレートアメリカンシリーズ、コイル切手は輸送機関シリーズというように、同じ時期の普通切手に複数のシリーズが並行して発行されるようになりました。この展示では、年代で区切らずに、シリーズで区切って、カタログのメインナンバーをご紹介します。

◎ 第20 フレーム 航空切手

入江司



1918年5月15日ニューヨーク、ワシントン、フィラデルフィアの3都市を結ぶ航空郵便路が開設されその料金を支払うための24セント切手が発行されました。この展示では、1918年から1933年までに発行された航空切手を発行順に紹介します。

◎ 第21 フレーム ペリー提督 日本の開国 1853 大場光博



アメリカの捕鯨母港 Nantucket 島宛から始まり中国の特許商人 Houqua・ペリー提督艦隊の1851 サラトガ号及ポーハタン号宛カバー、そしてペルリ来琉百年記念や日米修好通商百年記念などを展示します。

◎ 第22 フレーム 双発輸送機

山田幸信



1941年から発行された双発輸送機シリーズの航空切手は、航空機を大きく描く魅力的な図案で人気があります。第二次世界大戦の時期に使われた切手なので、興味深い使用例も見られます。未使用・使用済・カバーで1フレームに構成しました。

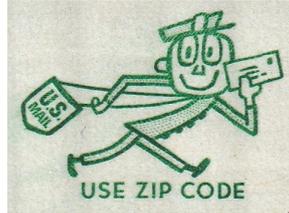
◎ 第23 フレーム Mailer's Postmark Permit 赤星弥之助



この制度は1925年にできた制度で郵便を差し出す人が自分自身の消印を使うと言うというもので当初は切手付き封筒、その後葉書、普通切手、記念切手と使用できる範囲が広げられ今日に至っています。それらの使用例をまとめてみました。

◎ 第24 フレーム Mr.Zip

島田明弘



1963年、郵便物区分け合理化の一環として「ZIP Code」が導入されました。これを浸透・普及させるために1964年1月発行の「上院議員 S・ヒューズトン」記念切手から「Mr. ZIP」のキャラクターが切手シートの耳紙に入るようになり、約30年間にわたって活躍しました。4種類のタイプがあるので、それを紹介します。

◎ 第25 フレーム 広告入りカバー

賀川彦治

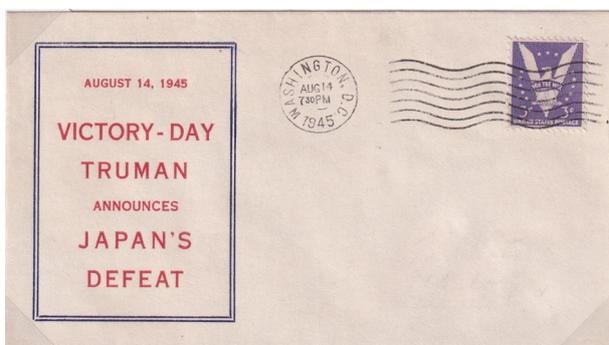


「広告入りカバー」とは郵便物の送り主が封書などの表裏を利用して自社商品やサービスを印刷しているカバーのことで、19世紀中頃のカバーに人気のある分野ですが、このフレームではアメリカが大きく躍動を始めた20世紀初頭のカバー

で構成しています。広告はその時代の生きた証拠であり、往時のアメリカ社会の一端が見え興味深いものがあります。

◎ 第26 フレーム Patriotic Cover

大越紳一郎



米国では、内外で緊張感が高まった場合、あるいは戦争が起こった場合など、愛国心を示すような図柄を封筒に描いた「愛国カバー」が使用されました。今回は第二次大戦期の愛国カバーを、対日戦（2～7リーフ）とヨーロッパ戦線（8～10リーフ）に分けて、日付順に示

したものです。時差の関係で、我々日本人の認識とは1日ずれているものもあり、その点も面白いと思います。

◎第27～28 フレーム UNITED STATES OF AMERICA



NATIONAL PARKS

池上健

1934年に国立公園を記念する10種類の切手が発行されました。その後、この図案を使った小型シートや同じ図案の無目打切手も発行されています。

今回はこれらの切手の版番号ブロックやクロスガッターブロック・FDCなどを2フレームにまとめました。

◎第29 フレーム アメリカ Lunar New Year (年賀干支) 切手

豊田謙



アメリカで干支(エト)年賀切手が発行されていることご存知ですか?

アメリカ郵政公社は、新年正月を祝う切手を、1992年に発行し、その後、ほぼ毎年干支年賀切手は発行され、2004年で干支動物を描いた切手は一回りしました。

2005、2006年には12支全てを描いた小型シートが発行されました。2008年からは正月の祝賀飾りの切手になり、2020年からはまた干支動物の切手になり、現在も年賀切手発行は継続しています。

◎第30 フレーム アメリカの記念切手 アメリカ郵趣研究会



会員の故山崎淳和さんがアメリカ郵趣研究会に寄贈された図入りアルバムの記事切手コレクションの中から、1993年から2009年にかけてのアルバムページをセレクトしました。アメリカらしい図柄をお楽しみください。

アメリカ郵趣研究会入会のご案内

会費 一般会員年会費 3,000円

PDF会員年会費 1,500円

PDF会員は初年度年会費無料!

会報 The U. S. Philately

カラー24ページ 年6回発行

例会 毎月第3土曜日 11:30~13:00

目白: 切手の博物館3階会議室

ブース スタンプショウ・JAPEX

切手展 毎年開催

入会申込・お問い合わせ先

メール: info@jps-ussg.com

郵送: 〒240-0031 横浜市保土ヶ谷区
藤塚町12-1-N406 小林方